

## 【2026 年度日本区域麻酔学会 論文賞・若手論文賞 講評】

論文賞・若手論文賞は、本年度より、学術集会での発表を含めて審査・選考を行う方式へ変更いたしました。応募7題の中から、学術委員6名による事前審査により上位5題を選出し、2026年4月24日の第13回学術集会にてご発表いただきました。厳正なる審査の結果、論文賞は札幌医科大学の救仁郷達也先生、若手論文賞は大阪大学の弓場智雄先生に決定いたしました。

### <論文賞>

Tatsuya Kunigo, Yusuke Yoshikawa, Shunichi Niki, Masahiro Ohtani, Mami Muraki, Asako Nitta, Yuki Ohsaki, Kanna Nagaishi, Michiaki Yamakage. Ultrasound-assisted middle thoracic epidural catheter placement utilizing the most dorsal sites of bilateral transverse process roots as anatomical landmarks: A cadaveric observational study and a clinical randomized controlled trial. J Clin Anesth. 2025 Feb;101:111740.

### <若手論文賞>

Tomoo Yuba, Yoshihisa Koyama, Hironobu Uematsu, Ayako Takahashi, Yoichi Matsuda, Yuji Fujino, Shoichi Shimada. Elucidation of the treatment mechanism of pulsed radiofrequency based on its anti-inflammatory effects. Scientific Reports. 2025;15:33611.  
doi:10.1038/s41598-025-19045-z

救仁郷先生の論文は、中部胸椎硬膜外穿刺という難易度の高い手技に対して、超音波を用いた新たな解剖学的ランドマークを提案した研究です。献体解剖およびRCTを組み合わせた構成により、シンプルかつ再現性の高い方法として示されており、成功率向上や若手教育への貢献が期待される、臨床的意義の高い研究と評価されました。

弓場先生の論文は、マウス膝関節痛モデルを用いて、パルス高周波（PRF）の鎮痛機序を炎症制御の観点から検討した基礎研究です。行動学的評価、組織学的評価、分子生物学的解析を統合し、さらに介入実験を通じてCGRPおよびsubstance Pの関与にまで踏み込んで検討されており、PRFの抗炎症作用を示した完成度の高い研究として高く評価されました。

授賞式は懇親会にて執り行いました（写真）。応募いただいた7題はいずれも大変優れた論文であり、発表いただいた5名の先生方からは、研究を進める上での工夫や苦勞も交えながら研究成果をご紹介いただきました。質疑応答も活発に行われ、大変有意義なセッションとなりました。ご応募いただきました先生方には、この場をお借りしてあらためて御礼申し上げます。

来年度も、論文賞・若手論文賞につきましては、学術集会における学術委員会企画「論文賞・若手論文賞セッション」での発表を含めて審査・選考する方式を継続する予定です。本企画が、区域麻酔ならびに局所麻酔薬・疼痛研究を含む本領域の学術活性化につながることを期待しております。

来年度につきましても、会員の皆様からの多数のご応募をお待ちしております。

2026年5月

日本区域麻酔学会論文賞選考委員会

委員長 森 隆

(授賞式写真)

